

■令和6年度小中一貫教育推進研究計画書

1 小中一貫教育の取組について

第2期小中一貫教育の取組 の教職員への浸透について 令和6年4月現在	・浸透している	・概ね浸透している	・浸透していない
	課題 目指す児童生徒像の観点から、①本時の授業で理解できたことやできるようになったこと等を子どもたちが自分の言葉で書き表せること。②発達段階に合わせ、生活経験に基づく「学習課題＝問い」の作り方を研究し、「書く」活動による「振り返り」を充実させること。		

※計画書の見方

○「進捗状況」について…A:検討中 B:着手済 C:R5から継続 D:令和6年度になって見直し

○「具体的な内容」について…【P】:Plan(計画) 【D】:Do(具体的方策)

【C】:Check(チェックの方策、チェックを行った結果) 【A】:Action(今後の取組)

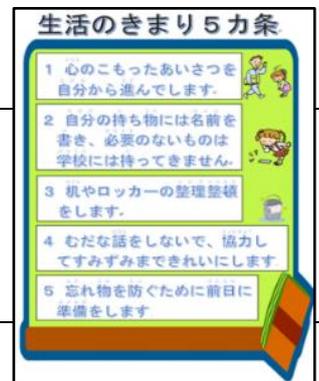
(1)目指す児童生徒像について

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
1	児童生徒像の共通する目指す	A B C D	ブロックの共通する児童生徒像 ・理解していること、できることを駆使して、自分に自信がもてる児童・生徒 学校独自の児童生徒像 ・自ら考え進んで学び、確かな学力と正しい判断力を身につけた子 ・自分を大切にしながら、相手の立場にも配慮して行動できる子 ・進んで心身を鍛え、より高い目標に向かってがんばりぬく子
2	身につけさせたい 資質能力	A B C D	ブロックでつけさせたい資質・能力 A ・自立した人間として、主体的に判断する力 ・自立した人間として、多様な人々と協働する力 B ・自立した人間として、新たな価値を創造する力 C 学校でつけさせたい資質・能力 ・自ら進んで学ぶ力、確かな学力、正しい判断力 D ・自分を大切にする心、相手の立場にも配慮する心 ・進んで心身を鍛える態度、より高い目標に向かって頑張りぬく力 <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学校生活充実感の高揚 学力向上 自己肯定感の高揚 </div>
3	合同研修組織の設置	A B C D	合同研修組織部会名等 ・研究運営委員会(各学校校長・教頭・(主幹教諭)) A ・研究推進委員会(各学校教頭、主幹教諭(研修主任)) ・専門部会(学力部会、生徒指導・生活交流部会、調査・統計部会の責任者及び統括チーフ) B ・教科部会(国、社、算・数、理、音、図・美、家・技、体・保、外・英、特支、通級、養護の部会長) C 学校独自の部会名等 ・研究運営委員会(校長、教頭、主幹教諭) D ・研究推進委員会(主幹教諭、教科等主任) ・専門部会(学力部会、生活・交流部会、調査・統計部会の部会メンバー) ・教科部会((国、社、算、理、音、図、家、体、外、特支、通級、養護の部会メンバー)

(2)小中一貫教育7つの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
4	学習過程の工夫と学習形態の工夫(授業における8つのポイントの活用)	A B C D	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究推進委員会(3校の校長、教頭、主幹教諭)で実施し、令和6年度研究計画の確認を行う。 第1回校内研修推進委員会で研究推進委員会の内容を周知する。 3校合同研修会を実施し、振り返りの指導の考え方や実践方法について、令和5年度の実践を基に工夫・改善を行い、3校の教員が共通認識で授業改善に取り組めるようにする。 <p>学校独自の内容・取組</p> <p>【昨年度を踏まえた今年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員で共通理解を図りタブレットの効果的活用方法を実践する 「授業で勝負」を合言葉に、「書く」活動による「振り返り」を重点項目とし、継続した取り組みを行う <p>【P】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「授業における8つのポイント」を指標とした授業改善及びタブレットを効果的に活用した授業実践(わくわく感のある授業の創造)を行う。 「深い学び」の実現に向けて、各教科等における「見方・考え方」を意識した授業実践・指導方法の研究を深化させることで、教職員一人一人が授業改善を行うとともに、学力の向上及び授業での自己肯定感の高揚を図る。 小中一貫した指導(特に課題設定の工夫、学習の過程を自分の言葉でまとめたノート作り)を通して、児童の思考力・判断力・表現力を育む。 教科横断的な「書く」活動(意図をもった振り返り活動)を全教科等で充実させることを通して、児童生徒の自己肯定感を高揚させる。 <p>【D】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①研究推進委員会(校長、教頭、主幹教諭、研修主任)が全教職員へ、「授業における8つのポイント」の周知する(4月上旬) ※R6年度重点①「学習課題の設定」②「自分の言葉を使ったまとめ」③「意図をもった振り返り」 ②校長・教頭が全職員に対し、自己評価シート記入事項についての共通理解を図る。(4月中旬) ※R6年度重点①授業における8つのポイントの実践(通年) ※授業改善・学校生活アンケート <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「なぜ、～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるか」など、疑問形で示す。 ○児童が追究したくなる課題(挑戦意欲をかき立てる課題、知的好奇心をくすぐる課題)に工夫する。 <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の課題に対する答え、結論(課題に正対)。 ○まとめに至る自力解決場面、練り上げ場面でタブレットを効果的に活用する。 ○本時のキーワードや学習用語を用いる等の条件を設定して、学びを振り返らせるなどの工夫をする。 <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学びの成果を実感させ、次時につながるような視点を設ける。 ○「何ができるようになったか」という視点で振り返らせ、子どもたちに、伸びを実感させて、自己肯定感を高める。 <p>(2)～(4)①教員は3校合同研修会で、3校(北中・大袋北小・桜井南小)の教員の相互授業参観し、意見交換を行う。小中合同教科部会で出た意見等については、記録担当が校内で内容を持ち帰り、主幹教諭が中心となり集約、校内研修時に全教員へ伝達する。教員は、伝達事項を参考にし、<u>「書く」活動による「振り返り」及びタブレットを効果的に活用した授業実践を行う。</u>(6月～11月)</p> <p>ア 相互授業参観では全教科を授業公開し、意見交換・協議の内容を自校の校内研修で伝達することで教員の指導力向上を図る。</p> <p>イ 北中ブロックで教科会を実施し、教員の授業力向上につなげるとともに<u>系統的な指導についての意識を高揚させる。</u></p>

4	学習過程の工夫と 学習形態の工夫	A B C D	<p>【C】(1)～(4)共通 (ア)全国学力・学習状況調査 (イ)埼玉県学力・学習状況調査 (ウ)授業改善・学校生活アンケート</p>
5	板書計画の習慣化とノート指導の統一化	A B C D	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など ・各教科や単元に応じた構造的な板書 ・「考える過程」を大切にされたノート指導 ・板書、ノート指導の一体化の認識</p> <p>学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ・「考える過程」が見えるノートづくり及び、板書計画の作成に向けた、教材研究・学年会の充実</p> <p>【P】 (1)板書計画(または簡単なイメージ)の習慣化、板書記録(写真)を残し振り返りを行うことによる日常的な改善による構造的な板書を実現する。 (2)全教科で構造的な板書が展開されるように、板書計画をもとに、学習の流れ、思考の流れが分かる板書に取り組む。 (3)「考える過程」を大切にされたノート指導の継続、児童の振り返りの時間確保(ノートへの記載)、教師の朱書きの内容の振り返りによる質の向上</p> <p>【D】 (1)～(3)－①(4月) 職員打ち合わせ、校内研修等の場を利用し、校長または教頭、あるいは主幹教諭が、目指す板書及びノート指導について教員に説明する。 (1)～(3)－②(4・5月) 初任者指導教員は校内初任者研修において、板書やノート指導を4、5月の重点とする。 (1)～(3)－③(4月中旬～5月) 校長・教頭が全職員に対し、自己評価シート記入事項についての共通理解を図る。(4月中旬) ア 記入事項 考える過程が見える板書(ノート指導)について (1)～(3)－①(4月) 管理職は、板書やノート指導に視点を定め校内巡視を行い、必要に応じて指導助言を行っていく。 (1)～(3)(通年) 各学年で「板書記録(写真)」や「板書計画」、「よい児童のノート」を共有し、学年会で協議することで板書やノート指導の統一化を進める。</p> <p>【C】(1)～(3)共通 (ア)全国学力・学習状況調査 (イ)埼玉県学力・学習状況調査 (ウ)越谷市検証テスト (エ)管理職が教室訪問を通して指導助言または指導者からの指導助言</p>
6	生活規律の共有化	A B C D	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など ・あいさつ運動 → あかるい声で、自分から、先に、いつでも ・小中連絡会 ・生活のきまり5カ条の実践・修正 ・生活アンケートの集計分析</p> <p>学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ・「持続的・積極的」な生徒指導体制の確立及び、生徒指導部会を中心とした指導事項の見直し</p> <p>【P】 (1)主幹教諭、生徒指導主任を核とした生徒指導対応チーム部会を月1回開催し、OODA ループ(「Observe(観察)、Orient(状況判断)Decide(決定)、Act(動く)」)のプロセスで決断精度とスピードを上げ、新たな問題行動を出さないための積極的な生徒指導体制を構築する。(月1+α回) (2)持続的な生徒指導体制の確立のため、生徒指導部会や教科部会、北中ブロック合同部会に指導主事等を招聘し、事例研修や指導法改善研修を充実させることで、教員の資質向上を図り、児童の生きる力を育</p>



<p>6</p>	<p>生活規律の共有化</p>	<p>成する。(学期 1 回以上)</p> <p>(3)生徒指導の3つの留意点を踏まえた積極的な生徒指導を実践するとともに、児童会を主体とした挨拶運動を今年度も重点化し、児童の学校生活充実感を高める。(あじさいカード・ひまわりカードの実践、意図的計画的な称賛)(5月、9月、1月)</p> <p>(4)中学校区内の生徒指導主任で連絡を取り合い、情報を共有する。<u>共有した情報をもとに見直しを必要とする指導事項については、毎月の生徒指導部会で協議する。(毎月)</u></p> <p>[D]</p> <p>(1)－①教員は令和6年度の学年・学級経営方針を学年内で共有する。</p> <p>(2)－①生徒指導主任は講師として、学校の課題を全教職員に理解させ、共通指導を徹底させる。</p> <p>(2)－②教員は、生活規律指導の振り返りとして、越谷市生徒指導の手引き第8集を活用する。</p> <p>(3)－①生徒指導主任が生徒指導研修会で、以下の点を全教員に対して指導する。</p> <p>ア 「～をしてはいけない」よりも、「～ができるとよくなります」の言葉がけ</p> <p>イ 「生徒指導共通指導事項」を作成・配付</p> <p>(3)－②生徒指導主任による挨拶運動の実施</p> <p>ア 生活のきまり5カ条「心のこもったあいさつを自分から進んでします」の重点化</p> <p>イ 年間のあいさつ運動の割り振り→クラス単位で実践する計画を立て実践</p> <p>ウ あじさい運動の実践。</p> <p>エ 教職員による共通行動→児童に「その場に応じたあいさつ」を身に付けさせるために、カードを渡し、称賛の声かけを行う。生徒指導主任と掲示主任は、良いあいさつをした児童のカードを掲示することで良さを広める。</p> <p>(4)－①月に一度程度、中学校区内生徒指導主任による連絡会(電話等)を実施。<u>連絡の内容から課題が認められた場合には、生徒指導部会で議題に取り上げ、重点指導の方法等を協議・決定する。</u></p> <p>[C](2月)(1)～(4)共通</p> <p>(ア)学校評価項目 → 教職員 1～5,10 知徳体のバランス、挨拶 保護者 1～5,10 同上 学運営協議会委員 1～5,10 同上</p>
<p>7</p>	<p>学習規律の共有化</p>	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3校授業参観 ・学習規律(学習 10 カ条)の継続 ・学力・学習状況調査の分析 ・家庭学習の推進 ・体育学習での統一(ハンドサイン・準備運動の流れ) <p>学校独自の内容・取組</p> <p>【昨年度を踏まえた今年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「毎時間の授業に集中できる児童の育成」を目指した、学習規律の統一 ・児童の自己肯定感を高揚させるための職員の言葉かけスキルの獲得に向けた研修の充実 <p>[P]</p> <p>(1)管理職、主幹教諭、生徒指導主任は、ブロックで共有化された生徒指導の約束を本校版「南っ子のやくそく」として整理し、職員間で共通理解を図って指導する。</p> <p>[D]</p> <p>(1)－①「南っ子のやくそく」の浸透</p> <p>ア 生徒指導主任による全職員の共通理解</p> <p>イ 主幹教諭による北中ブロックの取り組み状況の確認</p> <p>ウ 総合リスト活用による、児童一人一人の学習上の課題の把握</p> <p>(1)－②管理職は、本校の生徒指導体制及び生徒指導の取組について学校だより、学校ホームページ等で保護者、地域(特に学校運営協議会委員・PTA・学校応援団・交通指導員・見守りボランティア)に周知し、協力を仰ぐ。</p> <p>(1)－③職員の共通行動</p> <p>ア 「南っ子のやくそく」教室に掲示し児童に周知</p> <p>イ 体育主任による全校で統一した体育学習のハンドサインの指導</p> <p>(1)－④越谷市授業改善・学校生活アンケートの周知</p> <p>ア 「規律づくり」(9)いじめには下記のような種類があることをわかっていますか。指導及び周知</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・悪口をいう ・仲間に入れない ・たたく、ける ・無理にお金をもってこさせる ・他の人のものをわざと捨てたり壊したりする ・パソコンやスマートフォンなどで悪口をいう </div>

7	学習規律 の共有化	<p>【C】 (ア)「越谷市授業改善・学校生活アンケート」の実施 「再掲(NO4 参照)」 (イ)生徒指導部会での「生徒指導共通指導事項」の確認・修正</p>
8	家庭学習の統一化 (家庭との連携)	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など ・3校共通「家庭学習の進め方」を各家庭に提示する。保護者会及び個人面談でも活用を呼びかける。 ・各調査の結果分析に見える北中ブロックの改善点「書く能力」の向上を図る。</p> <p>学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ・AIドリルの効果的活用方法の統一化及び保護者への啓発強化 (1)家庭学習の習慣化については、児童に丁寧に説明をした後、懇談会時に担任から保護者に説明する。 (2)AIドリルの活用については、基礎学力の向上に結び付き取り組みを検証し実践していく。</p> <p>【D】 (1)－①管理職による家庭学習の周知 ア 学校だよりや学校 HP、家庭用連絡アプリ「すぐーる」、学校運営協議会、PTA 常任委員会等においてタブレット端末を活用した家庭学習について広く周知、家庭の理解と協力が得られるようにする。 イ 主幹教諭及び情報教育主任によるタブレット端末を活用した校内研修会の実施 (2)－①教員による家庭におけるタブレット端末の効果的な活用について協議、検討。 ア 学年主任を中心とした AI ドリルの活用方法の検討 イ 情報教育主任・主幹教諭による、タブレット端末を効果的に活用するためのマニュアルの作成。 ウ 不登校児童等に寄り添った、タブレット端末を活用した、双方向オンライン授業の実践</p> <p>【C】(1)～(2)共通 (イ)学年会での進捗確認と改善 (ウ)保護者懇談会や保護者面談での進捗確認と改善</p>

(3)学力向上のためのブロックオリジナルの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
9	各種学力調査の分析	A B C D	<p>ブロックでの共通分析結果等 ・学力向上を、克服すべき最優先課題とする。特に課題設定の工夫、考える過程が見えるノートづくり、活動時間の確保を、授業づくりの重点事項とする。</p> <p>(ア)全国学力・学習状況調査 〈国語〉 ◎学習指導要領内容別で見ると、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」においてともに全国平均を上回ることができた。対話や発表の前に「書く」ことで自分の考えを整理し、自信をもって表現する取り組みを進めてきたことや学習支援ソフト(ロイロノート)を活用し、教師と児童または児童同士が互いに情報、意見を交換し合い、互いの考えの良さを広げ深めることを進めてきたことが、物語文等の読み取りに活用できたと考えられる。しかし、更なる習熟が必要な児童も多くいることから、児童一人一人に合った学習支援を継続していく必要がある。→【4 学習過程の工夫と授業形態の工夫】</p> <p>◎問題形式別で見ると、昨年度課題であった「記述式」において正答率の向上が見られた。本中学校区で取り組んでいる「書く」活動の成果と考える。今後も、質の高い「書く」活動を行っていく必要がある。→【10 書く活動による振り返り】</p> <p>〈算数〉 ◎問題形式別で見ると、昨年度課題であった「記述式」において正答率の向上が見られた。本中学校区で取り組んでいる「書く」活動の成果と考える。今後も校内研修組織(学力向上部会)を中心に話し合わせ、系統立てた「書く」活動を継続して行っていく必要がある。→【10 書く活動による振り返り】</p> <p>〈全体として〉 ●－①国語・算数については昨年度と比較して正答率の向上が見られる項目もあるが、「学習指導要領内容別」「評価観点別」「問題形式別」全ての項目において、課題がみられた。→【5 板書・ノート指導】 ●－②無回答率が、昨年度と比較して高くなった。→【8 自己肯定感高揚】</p> <p>(イ)埼玉県学力・学習状況調査 ●－③無回答率は減少したが、文章からの書き抜き問題や文中から語句を探す問題等の無回答率が依然として高い水準となっている。→【8 授業内の自己肯定感高揚】</p>

9	各種学力調査の分析	<p>◎前年度と比較して、学力の伸びが見られる児童が増加した。</p> <p>◎国語・算数ともに無回答率の減少が見られた。小中一貫教育の取組である「書く」活動の成果を発揮することができた。今後は校内研修等を通して、効果があった前年度の取組について検証を進め、全学年全教科で取り組んでいく。</p> <p>(ウ)越谷市検証テスト</p> <p>◎すべての教科において、高い正答率を挙げる結果となった。年間を通し、体力向上の合言葉である「NEVER GIVE UP」を掲げ、全ての授業に集中し、最後まで取り組むことを目標に、授業実践を行ってきた結果であると考え。この結果を職員及び児童に向けて伝え、称賛することで、日々の学びの効果を実感させるとともに、一人一人の自信へとつなげ、自己肯定感の効用を図る。</p> <p>(工)授業改善・学校生活アンケート</p> <p>●一⑥アンケート「心(5)安心」「規範(7)落ち着き」の否定的な回答の割合が他の項目に比べ高い。解決に向け、生徒指導主任を核とし、共通理解・共通指導の徹底を図るとともに、授業での自己肯定感の高揚を図るために、教員の学級経営力を向上させ、安心して学ぶことができる環境づくりを行う。→【8 授業内の自己肯定感高揚】</p> <p>◎アンケート「心(4)感動体験」「学校生活充実感(14)授業内容は分かるか」では、多くの児童が肯定的な回答をしている。学年会での教材研究の時間を確保し、授業づくりを第一優先とした取り組みを行った結果が表れたと考える。</p>
10	書く活動による振り返り	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りに関するマトリクス表を活用するとともに、さらに今年度の取組を通して深化させる。 ・教科ごとに改善点等修正を行う。 <p>学校独自の内容・取組</p> <p>【昨年度を踏まえた今年度の課題】</p> <p>A 【P】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業で勝負」を合言葉に、「書く」活動による「振り返り」を重点項目とし、継続した取り組みを行う。 <p>B 【D】</p> <p>(1)一①教員は3校合同研修会で、3校(北中・大袋北小・桜井南小)の教員の相互授業参観し、意見交換を行う。小中合同教科部会で出た意見等については、記録担当が校内で内容を持ち帰り、主幹教諭が中心となり集約、校内研修時に全教員へ伝達する。教員は、伝達事項を参考にして、「書く」活動による「振り返り」及びタブレットを効果的に活用した授業実践を行う。</p> <p>【4 学習過程の工夫と学習形態の工夫 D(2)～(4)一①の再掲】</p> <p>ア 相互授業参観では全教科を授業公開し、意見交換・協議の内容を自校の校内研修で伝達することで教員の指導力向上を図る。</p> <p>C 【C】</p> <p>(ア) 授業改善・学校生活アンケート → 児童(13)(14)(15) 学校生活充実感</p>

(4)自己肯定感の高揚への取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
12	越谷市授業改善・学校生活に関するアンケートの分析	A B C D	<p>ブロックでの共通分析結果等</p> <p><授業改善・学校生活アンケートの項目></p> <p>・授業づくり ・学校生活充実感 ・自己肯定感 ・規範づくり ・心づくり</p> <p>◎いずれの項目においても肯定的な回答率が上昇傾向にある。小学校における自己肯定感の高揚が著しく、高い水準を維持している。</p> <p>◎児童に課題を与え、ほめて育てるという指導が定着しつつある。また、児童生徒の回答と教師の回答の意識差が小さくなってきており、根拠のある指導、明確で見通しをもった指導による成果が表れてきている。</p> <p>◎授業における児童生徒への支援を充実させるため、学び合いの場面を充実させるべく、教師の資質向上を継続していく必要がある。</p>

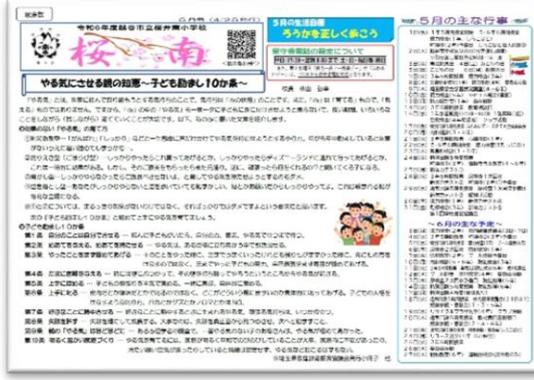
<p>12</p>	<p>越谷市授業改善・学校生活に関するアンケートの分析</p>	<p>学校の分析結果 ▶越谷市授業改善・学校生活アンケート結果(12月実施) ●-⑥アンケート「心(5)安心」「規範(7)落ち着き」における否定的な回答の割合が他の項目に比べ高い。解決に向け、生徒指導主任を核とし、共通理解・共通指導の徹底を図るとともに、授業での自己肯定感の高揚を図るために、教員(特に若手教員)の学級経営力を向上させ、安心して学ぶことができる環境づくりを行う。</p> <p>A ◎アンケート「心(4)感動体験」「学校生活充実感(14)授業内容は分かるか」では、多くの児童が肯定的な回答をしている。学年会での教材研究の時間を確保し、授業づくりを第一優先とした取り組みを行った結果が表れたと考える。</p> <p>B (1)主幹教諭・生徒指導主任は、令和5年度の課題を踏まえ改善案を作成し、管理職の指導助言を受ける。管理職の指導助言後、主幹教諭は加筆修正を行い、令和6年度版「生徒指導共通指導事項」を完成させる。</p> <p>C (2)主幹教諭は、春季休業中に、全教職員で「生徒指導共通指導事項」の読み合わせを行い、共通指導・共通行動ができるようにするための時間を設定する。生徒指導主任を講師として、学校の課題を全教職員に理解させ、共通指導を徹底させる。</p> <p>D (3)第1回校内研修推進委員会において、主幹教諭及び研修主任は、4月に実施するオリエンテーション授業(各教科主任による校内公開授業)の計画を立案する。 (4)各教科主任は、北中学校区での取組や授業での自己肯定感の高揚を踏まえオリエンテーション授業を行う。教員は、年度初めの学習規律づくりの参考にする。</p>
<p>13</p>	<p>自己肯定感を授業の中で高める取組</p>	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など ・対話や発表の前に「書く」ことで自分の考えを整理し、自信をもって表現する取り組みをさらに進める。 ・本時の授業で「理解できたこと/できるようになったこと」を個々の子どもたちが自分の言葉で書き表す時間を確保するとともに、「書く」内容の質の向上を図る。なお、「書く」活動としての「振り返り」ではなく、「振り返り」は、「書く」活動による「振り返り」と捉える。 ・「振り返り」のためには、子どもに提示する「学習課題」の形を合同教科部会として揃える必要があり、発達段階に合わせ、生活経験に基づく「学習課題＝問い」の作り方を同時進行で研究する。 ※授業における8つのポイント「⑦意図をもった振り返りをさせる」</p> <p>学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ・「毎時間の授業に集中できる児童の育成」を目指した、学習規律の統一 ・児童の自己肯定感を高揚させるための職員の言葉かけスキルの獲得に向けた研修の充実</p> <p>【P】 (1)「授業における8つのポイント」を指標とした授業改善(わくわく感のある授業の創造)を行う。 (2)「深い学び」の実現に向けて、各教科等における「見方・考え方」を意識した授業実践・指導方法の研究を深化させることで、教職員一人一人が授業改善を行うとともに、学力の向上及び授業での自己肯定感の高揚を図る。</p> <p>A (3)小中一貫した指導(特に課題設定の工夫、学習の過程を自分の言葉でまとめたノート作り)を通して、児童の思考力・判断力・表現力を育む。</p> <p>B (4)教科横断的な「書く」活動(意図をもった振り返り振り返り活動)を全教科等で充実させることを通して、児童生徒の自己肯定感を高揚させる。</p> <p>C 【D】 (1)-①研究推進委員会(校長、教頭、主幹教諭、研修主任)が全教職員へ、「授業における8つのポイント」の周知する(4月上旬) ※R6年度重点 ①「学習課題の設定」②「自分の言葉を使ったまとめ」③「意図をもった振り返り」</p> <p>D (1)-②校長・教頭が全職員に対し、自己評価シート記入事項についての共通理解を図る。(4月中旬) ※R6年度重点①授業における8つのポイントの実践(通年) ※授業改善・学校生活アンケートの数値目標</p> <p>【課題】 ○「なぜ、～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるか」など、疑問形で示す。 ○児童が追究したくなる課題(挑戦意欲をかき立てる課題、知的好奇心をくすぐる課題)に工夫する。</p> <p>【まとめ】 ○本時の課題に対する答え、結論(課題に正対)。 ○まとめに至る自力解決場面、練り上げ場面でタブレットを効果的に活用する。 ○本時のキーワードや学習用語を用いる等の条件を設定して、学びを振り返らせるなどの工夫をする。</p> <p>【振り返り】 ○学びの成果を実感させ、次時につながるような視点を設ける。 ○「何ができるようになったか」という視点で振り返らせ、子どもたちに、伸びを実感させて、自己肯定感を高める。 【4 学習過程の工夫と学習形態の工夫 D(1)-②の再掲】</p>

<p>13</p>	<p>自己肯定感を授業の中で高める取組</p>	<p>(2)～(4)－①教員は3校合同研修会で、3校(北中・大袋北小・桜井南小)の教員の相互授業参観及び意見交換後、「書く」活動による「振り返り」について授業実践を行う。(4月中旬～5月)</p> <p>A 相互授業参観では全教科授業公開・意見交換による指導力の向上を図る。 B イ 北中ブロックで教科会を実施し、教員の授業力(教科の見方・考え方を意識)向上につなげる。 C ウ 各教科主任は、令和5年度の北中学校区の取組を基にオリエンテーション授業を行い、北中学校区の取組を全教員に明確に示す。</p> <p>D 【C】 (1)～(4)共通 (ア)全国学力・学習状況調査 (イ)埼玉県学力・学習状況調査 (ウ)越谷市検証テスト (エ)授業改善・学校生活アンケート</p>
<p>14</p>	<p>自己肯定感を授業以外の場面で高める取組</p>	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な生徒指導による自己肯定感の高揚を図る。 ・具体的には、子どもの「自己肯定感」を高めるために、全ての教育活動において積極的な生徒指導の考えを基に、好ましい評価ができる場面を作り、子どもを活躍させ、有効で、効果的な手法で評価していく。 <p>学校独自の内容・取組</p> <p>【昨年度を踏まえた今年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の自己肯定感を高揚させるための職員の言葉かけスキルの獲得に向けた研修の充実 ・学年主任を中心とした若手教員の育成 <p>【P】</p> <p>(1)授業を核とした学校生活全体で、「肯定的な声掛け」を多く児童に与える。</p> <div data-bbox="347 969 1474 1375" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>自己肯定感</p> <p>「自分は大切な存在だ」、「自分はかけがえのない存在だ」と思える心の状態</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #90EE90; padding: 5px; width: 30%;">自尊感情</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #90EE90; padding: 5px; width: 30%;">自己有用感</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #90EE90; padding: 5px; width: 30%;">達成感 成就感</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ADD8E6; padding: 5px; width: 30%;">自分でつかみとる</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ADD8E6; padding: 5px; width: 30%;">友達からの評価で</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #FFD700; padding: 5px; width: 30%;">教師からの評価で</div> </div> </div> <p>【D】</p> <p>(1)教員による「褒めて伸ばす」指導の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 児童が他者から認められる場면을意図的・計画的に設定する。 イ 年間をとおして児童の自己肯定感を高めるための5つのポイントを振り返り、これらを押さえた支援を実施する。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 積極的な生徒指導で意図的・計画的・継続的に <input type="checkbox"/> 価値観の多様化を認めて <input type="checkbox"/> 試行錯誤の経験を与えて <input type="checkbox"/> 「やらされている」ではなく「自分がやった」感覚を与えて <input type="checkbox"/> 組織で共有して <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-left: 10px; flex-grow: 1;"> <p>自己肯定感を高めるための5つのポイント</p> </div> </div> <p>【C】</p> <p>(ア)授業改善・学校生活アンケート → 児童(13)(14)(15) 学校生活充実感「再掲(NO4 参照)」</p>

(5)学校間の交流

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D で記入)
15	(行事・学習・作品など) 児童生徒間の交流	A B C D A B C D	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同避難訓練(越谷学校防災の日) ・あいさつ運動(学期に1回程度) ・児童会・生徒会の交流 ・先輩と語る会(2月に北中学校作成の学校紹介 DVD の視聴) ・特別支援学級交流会 ・作品交流 <p>学校独自の内容</p> <p>[P]</p> <p>(1)3校合同研修会において児童生徒間交流活動について具体的な協議を行い、交流活動の充実を図る。</p> <p>[D]</p> <p>(1)―①行事交流をとおして、児童に、中学生へのあこがれを抱かせ、将来に見通しを持たせる。</p> <p>(1)―②学習交流をとおして、中学生の学習支援を受けて、児童の学習習慣の確立と学力向上へ意識を向ける。</p> <p>(1)―③作品交流をとおして、児童に、中学生へのあこがれを抱かせ、将来に見通しを持たせる。また、作品をデータ化して保存して、相互活用しやすくする。</p> <p>(1)―④その他の交流では、学校の部活動紹介ポスターや委員会活動を紹介する掲示コーナーを設け、児童が日常的に中学校(中学生)に触れる環境をつくり、中学校(中学生)へのあこがれの意識を高める。</p>
16	(合同部会、合同研修、相互授業など) 教師間の交流	A B C D	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究運営委員会(各学校校長・教頭・(主幹教諭)) ・研究推進委員会(各学校教頭、主幹教諭(研修主任)) ・専門部会(学力部会、生徒指導・生活交流部会、調査・統計部会の責任者及び統括チーフ) ・教科部会(国、社、算・数、理、音、図・美、家・技、体・保、外・英、特支、通級、養護の部会長) ・小中合同研修会 ・小中合同挨拶運動 ・相互授業参観(支援担当訪問、校内授業研究会) <p>学校独自の内容・取組</p> <p>[P]</p> <p>(1)3校合同研修会において決定した計画に則って教師間交流を行う。また、教職員の思いを反映させながら内容の充実を図っていく。</p> <p>[D]</p> <p>(1)―①年度当初に、ミッション、ビジョン、戦略、戦術、計画、ゴールを明確に示し、以下の委員会や部会の取組を実効的にする。</p> <p>(1)―②研究推進委員会(3校の校長、教頭、主幹教諭) 学期1～2回+α実施</p> <p>(1)―③3校合同授業研究会(相互授業参観)、教科部会、研究運営委員会(1学期2校、2学期1校)</p> <p>(1)―④3校合同研修会(学期に1回)</p> <p>(1)―⑤校内研修会において各部会の取組等について報告を行い(適宜)、校内での取り組み方等について協議・実施</p>

(6)保護者・地域連携(人材活用、情報発信など)

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D で記入)
17	地域保護者への情報発信	<p>①</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>②</p> <p>D</p>	<p>ブロックでの共通内容・取組内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区内パトロール ・学校・家庭・地域の連携強化に向け、小中一貫教育リーフレットの配付、小中一貫教育推進計画書のHP公開、学校だより配付(毎月)、HP更新(適時)を行い、北中ブロックの特色ある取組及び目指す児童像の視点に立った取組を情報発信する。 <p>学校独自の内容</p> <p>[P]</p> <p>(1)学校、家庭、地域、関係機関との連携を深め、情報収集、情報発信に努めることで、地域とともに歩む開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>[D]</p> <p>(1)-①学校運営協議会の定期開催</p> <p>(1)-②学校だより、学校HP、家庭用連絡アプリ「すぐー」を活用しての情報発信</p>   <p>(1)-③学校応援コーディネーターを活用した、学校応援団活動の充実</p>

(7)ブロックオリジナル

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D で記入)
18	小中一貫教育(外部とのつながり)		<p>ブロックでの共通内容・取組内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区内パトロール ・特別支援学級交流会(各校の紹介・発表、ミニ運動会) ・不登校対策 <ul style="list-style-type: none"> ア 小学校低学年からの不登校傾向、将来的な可能性も含めたデータの共有を行う。 イ 教育相談部会の協議内容を相互に交換する。 ウ 長期休業中に合同ケース会議を開く。 エ 通級教室在籍児童の情報交換会を開催する。 <hr/> <p>学校独自の内容</p> <p>【P】 (1)年度当初に、ミッション、ビジョン、戦略、戦術、計画、ゴールを明確に示し、外部組織との連携を取る。</p> <p>【D】 (1)－①教員は、児童の実態を踏まえ、学級、学年等と連携し、具体的な活動内容についての計画を立案する。</p> <p>A (1)－②管理職は、学年が作成した計画を基に外部講師との連携を図り、協力を依頼する。</p> <p>B (1)－③主幹教諭は、北中学校主幹教諭と連携し、北中学校区小中一貫教育の取組を踏まえて、実施計画の詳細を作成する。</p> <p>※桜井南小学校の主な出前授業の計画</p> <p>◎ C</p> <p>社会との関わりの中で児童の自己肯定感を高揚させ、学校生活充実感を高める桜井南小の主な活動</p> <p>ア 外部指導者(市職員、交通指導員、東埼玉自動車教習所職員)を招き、1, 2, 3, 5年生対象に、5～12月に交通安全教室(出前授業)を実施。</p> <p>イ 外部指導者(教育委員会主任指導主事)を招き、4～6年生対象に、5月または6月に情報モラル教育出前授業を実施。</p> <p>ウ 外部指導者(警察官)を招き、1, 2年生対象に、6月に防犯出前授業を実施。</p> <p>エ 外部指導者(教育委員会主任指導主事)を招き、4～6年生対象に、6月にいじめ防止育出前授業を実施。</p> <p>オ 外部指導者(未定)を招き、4～6年生対象に、8～10月に、がん教育、人権に係る出前授業を実施する。</p> <p>カ 外部指導者(環境の専門家)を招き、4年生対象に、5月に生物多様性調査に係る出前授業を実施する。</p> <p>※その他、年間指導計画に則って、「社会との関わりの中で児童の自己肯定感を高揚させ、学校生活充実感を高める授業や体験活動」オリジナルで実施する。</p> <p>(1)－④北中ブロックで、毎週の定例教育相談部会を行い、ミニケース会議を行う。</p> <p>(1)－⑤中ブロックで、相談室、SC、通級指導教室、養護教諭を含めた情報交換により、具体的なアプローチを検討し、学年として対応を検討して取り組む。</p>